



津山町で生産されたスギ製材品

「登米の森林から」

森林・林業の好循環による地域の健全な森林づくりを目指して！



登米町森林組合
代表理事組合長
芳賀 稔

- ▶ 平成 27 年度の木材自給率は、前年から 2.1 ポイント上昇して 33.3%となり、平成 23 年から 5 年連続で上昇しました。しかしその内訳をみると、燃料用が前年比 39.5%増となったのに対して、用材が 2.3%減少しています。さらに、木材総需要は平成元年から 35%も減少しています。また、新たな森林・林業基本計画では、木材自給率 50%の達成目標を 5 年先送りして、平成 37 年での達成を目指すこととなりました。木材価格も依然として低迷を続け、森林林業の現状は厳しい状況にあります。
- ▶ このような状況下で登米市では、持続可能な森林管理の国際基準「FSC 森林認証」を平成 28 年末

に取得したほか、市内産木材を使用した住宅を支援する「地域材需要拡大支援事業」、ペレットや薪を燃料として使用する暖房機器の購入設置を支援する「住宅用新・省エネルギー設備導入支援事業補助金」、原発事故にともなう原木露地栽培椎茸の出荷制限解除を支援する「特用林産物総合支援事業」等、全国的にも類をみない森林・林業に対する支援体制が整備されています。

- ▶ また、産官学協同開発を進めてきた登米市産ナラ材を活用した学童机が、市内全小中学校に導入されるほか、震災復興期には地域の諸団体と共に、登米市産材を活用した木造災害公営住宅の建設が行われてきました。このように本地域では官民挙げての『攻めの森林・林業』が行われています。
- ▶ 県、登米市及び市内の 3 森林組合が共同で執筆、発行するニュース・レターは今回で第 6 号の発行となりました。このニュース・レターを通して森林林業への関心がより高まり、次代を見据えた森林資源の有効活用、さらには地域活性化につながる事を願っております。

もり 登米の森林 から 第 6 号

<共同執筆・編集>

宮城県登米地域事務所林業振興部
登米市産業経済部産業政策課
登米町森林組合
東和町森林組合
津山町森林組合

CONTENTS

- ◆ 巻頭言 1
- ◆ 森林づくりの技術 2
- ◆ 森林づくりへの支援 2
- ◆ シリーズ・インタビュー 3
ヤマで働く！
- ◆ ハイ！こちら森林組合 4
- ◆ 登米市 NOW！ 5
- ◆ トピックス 6
- ◆ ふるさとの自然案内 7
- ◆ コラム 8



登米市産材を活用し、地域活性化につなげよう！
(登米町森林組合プレカット工場)

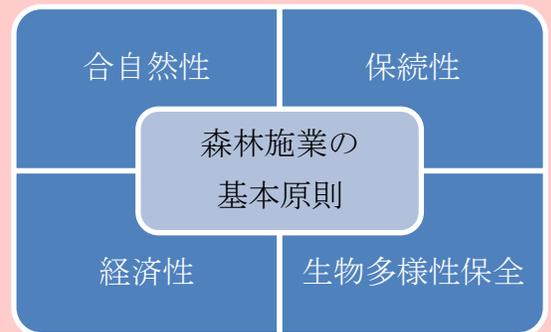
シリーズ・ 森林づくりの技術

その⑥ 自然の力には勝てません(合自然性ごうしぜんせいの原則)

<森林経営・森林施業の基本原則>

今回は、持続的な森林施業を行うために守るべき、基本原則について説明します。

右の図に書いてあるように全部で4つありますが、まずは「合自然性（「ごうしぜんせい」と読みます。）の原則」です。



<合自然性の原則>

林業は木を野外で育てます。ビニールハウスや工場などの施設で育てることはできません。自然からもろに影響を受け、長い期間さらされるわけですから、人の力で環境を調整することは無理です。自然に逆らった森林施業は必ずどこかで失敗し、合自然性を無視した森林経営はいつか破綻します。

人工林を再造林する場合、たとえばスギが前生樹で生育が良かった場合は同じスギを植えるのが得策でしょう。生育が悪かった場所は別樹種に変えることもできますが、既に広葉樹が進出して混交林化が進んでいる場合は、そのまま混交林化を進め、無理に皆伐して再造林する必要もないでしょう。また、今現在の材価だけで別の樹種を植えるのはリスクが大きく、余りおすすりできません。



もちろん、生産目標があって人工林施業を行うわけですから、適切な間伐を行って目標林型を実現する努力は必要です。裸地を森林に変えていく場合もあるでしょう。そうした場合でも、自然環境に真っ向から逆らうのではなく、その土地の自然環境と調和したやり方であればなりません。

自然の力には勝てません。木を育てるときも、道を付けるときもそうです。収穫するときであっても、自然環境への配慮を怠ると、手痛いしっぺ返しを食らうことになります。

道を付けるときも、使い捨てじゃなく、地形に配慮した丈夫な道こそ低コストです。

シリーズ・ 森林づくりへの支援

その⑤ 間伐の補助は前の補助から5年以上あける

◆ちょうど伐り時なんですけど

5年ぐらい前に保育間伐した人工林が、生育環境に恵まれ、良い感じに木が太ってきて、収入間伐に最適、ということもあります。が、補助事業を使って間伐しようとする場合は注意が必要です。

現在の収入間伐は機械作業が前提になっているので、ある程度のまとまりが必要です。国の制度もそうしたまとまりがあることを補助の条件にしています。

面積は5ha以上、という条件は割と浸透してきましたが、5年以上時間的間隔を開ける、というのが見逃されがちです。

現在推奨されている施業パターンは、間伐する間隔が10年程度を想定しています。一度間伐したら10年程度は手を付けなくて良い、ということです。

5年以内に次の間伐が必要ということは、前の間伐が不十分と見なされる恐れがあるということでしょう。

※ 詳細は、森林組合または登米地域事務所林業振興部、登米市産業政策課へお問い合わせください。

シリーズ・インタビュー ヤマで働く！

現在、植林や間伐など森林の造成や整備のため働く人々は県内でわずか1,400人ほどです。しかし、こうした方々の活躍が、本県の全国有数の木材生産や多様な森林機能の発揮を支えているのです。このコーナーでは、そのような「普段はあまりお目にかかれないけれど、実は私たちの豊かで安全・安心な生活を支えている」ヤマのプロフェッショナル達をシリーズで紹介しています。

林業の現場から（第6回）

東和町森林組合 作業班
ささきともや
佐々木 朝哉さん

佐々木さんは今年度の5月から、緑の雇用事業を通じて、東和町森林組合で働き始めました。現在33歳。石巻市出身で、現在も石巻市から通勤しています。

「山の仕事を始めてみて、やっぱり整備された森林は綺麗ななあ。いいなあ。と思いました。」

以前はコンビニの店長として働いていた佐々木さん。休みの日によくドライブに出かけるそうですが、その道すがら、綺麗に整備された森林の景色が普段から気になっていたとのこと。

林業に就業するきっかけとなったのは、2年前に宮城県と宮城県林業労働力確保支援センターが主催している山仕事ガイダンスに参加したことでした。仕事の内容や就業の方法を知ったことでさらに興味が深まり、林業のことについて調べながら前職を続けていましたが、昨年1月に転職を決意し、東和町森林組合で働き始めました。

「林業のことはこれまで全く知らなかったのですが、1個1個が新しく驚きの毎日です。」

これまでは林業に関わる機会は全く無かったそうですが、実際に山に入ってみると、遠くから見ていただけではわからなかった森林作業道の存在に気づいたり、この時期はこの実がなるといった季節ごとの特色なども、先輩方が一つ一つ丁寧に教えてくれ、毎回新鮮な気持ちで仕事に臨めるそうです。



さわやかな笑顔が素敵な佐々木さん



協力して作業に取り組みます



カメラ視線を促す先輩とはにかむ佐々木さん



杭打ち作業中

取材当日は先輩方とともに、森林の所有者毎の境界に杭を打つ作業を行っていました。和気あいあいとした雰囲気の中でも、作業に入ると先輩方の指示に迅速に対応していた佐々木さん。ここ数年で入ってきた中でも一番まじめなくらいだと感心されていました。

「大変なこともありますが、自分の手で山をきれいにできるというやりがいがあります。」

1年目の今年は刈払、測量、伐倒等の作業に取り組んできており、近々空師の仕事を見に行くことを楽しみにしているそう。来年からは高性能林業機械の講習も受ける予定

で、一通りの仕事を覚えていきたいとのことでした。

自らの手で美しい森林の景色を作り上げる林業の仕事に大きなやりがいを感じている佐々木さん。今後も先輩方とともに、怪我には十分注意しながら、美しい森林をつくり続けていきたいと思います。

（インタビュー）

県登米地域事務所 技師 大内 環

林業や森林組合への就業については、最寄りの森林組合、または(公財)宮城県林業活性化基金(宮城県森林組合連合会内) 電話 022-217-4307 までお問い合わせください。

ハイ！こちら森林組合！ 特別編「ハイ！こちら製材所！」

登米市津山町には、地域の豊富な森林資源を利用する国産材専用の大型製材工場が集積しています。その丸太消費量は県全体の4割を占めており、他市町村や県外からの丸太移入量も多く、宮城県の木材加工・流通の一大拠点となっています。

毎回このコーナーでは登米市内の森林組合の情報やお知らせをお届けしていますが、今号では特別編として、登米市津山町の製材所をご紹介します。

【記載内容】

- ① 代表者名、② 所在地、③ 電話番号、④ 創業年月、
⑤ 主な製材品目、⑥ 社長より一言（PRポイント）

株式会社 佐藤製材所

- ① 代表取締役社長 佐藤 裕康
- ② 登米市津山町柳津字町9-2
- ③ 0225-68-2203
- ④ 昭和32年4月
- ⑤ 引角、挽割、板類（人工乾燥・天然乾燥）
- ⑥ 当社工場はJAS認定を取得しており、スギを主に、各種針葉樹材を取扱っています。

登米市、南三陸町、大崎市、栗原市など、広く宮城県産材を取扱っており、「県産材利用エコ住宅普及促進事業」（新築住宅支援）にも対応しています。



有限会社 関野材木店

- ① 代表取締役 関野 光一
- ② 登米市津山町柳津字黄牛比良5-1
- ③ 0225-68-2204
- ④ 昭和44年4月
- ⑤ 引角、挽割、板類（天然乾燥）
- ⑥ 木材1本からのご注文・お探しの木材が見つからない時は、是非お気軽にご相談ください！

良質な国産スギ材を、熟練の職人が1本1本丁寧に加工・販売いたします。DIY用から建築用まで、規格外寸法、小口注文にも対応。（持込み丸太の加工も承ります。）



有限会社 日野製材所

- ① 代表取締役 日野 正勝
- ② 登米市津山町柳津字本町259-21
- ③ 0225-69-2147
- ④ 昭和50年4月
- ⑤ 引角、挽割、板類（人工乾燥・天然乾燥）
- ⑥ 当社では大口注文のほか、一般住宅向け製材品も承っております。他所では対応できない大径材の加工・受入も可能です。全品プレーナー加工で販売しています。



有限会社 今野材木店

- ① 代表取締役 今野 光男
- ② 登米市津山町柳津字本町108
- ③ 0225-68-2052
- ④ 昭和35年7月
- ⑤ 引角, 挽割, 板類 (天然乾燥)
- ⑥ 小口注文にも対応しますので, お気軽にご相談下さい。



株式会社 山亀材木店

- ① 代表取締役 山形 喜昭
- ② 登米市津山町柳津字新形沼182-1
- ③ 0225-68-2127
- ④ 昭和34年1月
- ⑤ 引角, 挽割, 板類 (天然乾燥)



登米市 NOW !

市有林のFSC森林認証FM認証の取得について ～ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～

登米市では、認証木材を活用した新たな木製品の製品化を推進することにより、地域林業・木材産業の活性化を図る事を目的に、FSC森林認証FM認証の取得に取り組んでいます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて整備される新国立競技場は、本市と縁のある隅研吾氏のチームの設計案が採用され、その建設に際しては、国際的な森林認証を受けた国産木材を活用し、林業・木材産業の活性化を図ることとされています。

6月24日、FM認証取得に向けて市・市内各森林組合・米川生産森林組合を構成員とする登米市森林管理協議会を設立し、その後、審査機関による事前調査及び本審査（書類及



森林管理協議会設立総会

び本審査（書類及び現地）が行われました。

11月14日に審査は終了し、12月13日付けでFM認証を取得しました。

また、市内製材所等のCOC認証取得を支援するため、費用の1/2を交付する『森林認証取得支援事業』を開始しました。

今後、一般材と差別化された木材利用という流れはより大き

くなっていくものと予想されており、この森林認証の取得により市内産木材・木製品の知名度がアップし、販売先が拡大されるとともに新たな木製品の開発につながることを期待しております。



FSCのロゴマーク



審査機関による現地審査状況

トピックス

「市民参加の新たな森林づくり・秋」が開催されました

宮城県・登米市・米川生産森林組合の主催による「市民参加の新たな森林づくり・秋」が、11月4日（金）に登米市東和町の米川生産森林組合所有林で開催されました。

森林は地球環境にとって大切な資源であり、この大切な森林を次代へ残すため、登米市では市制施行の平成17年から「市民参加の森林づくり」に取り組んでいます。春と秋に行っており、今回で12回目になります。

米川小学校の全児童や南三陸町の被災者の方をはじめ、一般参加者等約200名が参加し、ヤマザクラ苗600本の植樹のほか、ドングリ（コナラやクヌギ）の種まきを行いました。当日は天気恵まれ、植樹活動は予定よりも早い時間で終了しました。

その後、米川小学校体育館に移動し、シンガーソングライターの熊谷育美さんによるグリーンコンサートを楽しんだり、木工体験で木製ギフトボックスを作製したりと、参加者は全員満足した様子でした。



ヤマザクラ苗の植栽



ドングリの種まき



全員集合!!



木製ギフトボックスの作製



グリーンコンサート



まいたけ汁とおにぎりの昼食

野鳥の越冬シーズン到来!!!

全国有数の越冬地である登米市には、ラムサール条約登録湿地の「伊豆沼・内沼」及び「蕪栗沼・周辺水田」に国の天然記念物のマガンなどの渡り鳥が多数飛来します。

平成28年11月9日に行われたガンカモ類生息調査では、約6万羽の飛来が確認されました。今年も早朝のマガンの飛び立ちなど、野鳥の観察が3月上旬頃まで楽しめると思います。

県内初の高病原性鳥インフルエンザ検出

11月21日に登米市南方町で発見されたマガンの死骸から、高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。宮城県では過去に事例がなく、県内初となるものです。

その後も登米市に隣接する栗原市や岩手県一関市でも野鳥の死骸からウイルスが検出され、全国的にも大流行しています。

しかし、鳥インフルエンザによる被害で最も懸念されるのは、養鶏場で発生することです。**通常の野鳥観察などでは人に感染しないと考えられています**ので、過度に心配する必要はありません。

野鳥の観察に当たっての注意点

- ・鳥インフルエンザは、ウイルスを含んだ野鳥の排泄物を踏むなどして拡散しますので、排泄物には触れないでください。
- ・もし排泄物に触れた場合は、手洗い・うがい・靴底をきれいにするなどを行ってください。

「ラムサールトライアングル」という言葉を聞いたことはあるでしょうか？これは「伊豆沼・内沼」、「蕪栗沼・周辺水田」及び大崎市「化女沼」の3つのラムサール条約湿地が三角形の角に位置していることから、「ラムサールトライアングル」と言われています。それぞれの場所で違った種類のガンなどが観察できますので、出かけてみませんか。

URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/ramutora.html>
 (「ラムサールトライアングル」で検索できます)

ラムサールトライアングルで見られる希少なガン・ハクチョウの仲間



シジュウカラガン



アメリカコハクチョウ



ハクガン



マガン（白化型）



カリガネ

表彰おめでとうございます

前号で「価値ある森林づくり」を目指す米川生産森林組合の取組みを掲載しましたがその続報。

昨年9月に同組合参事の遠藤克美さんが、東北・北海道地区緑化推進協議会において、緑化功労者として表彰されました。38年間の活動と豊かな森づくりに対する貢献が高く評価されたものです。

同組合は植樹体験イベントや米川小学校との連携などで有名ですが、所有森林面積は928ヘクタールで県内の生産森林組合の中では2位。直営の作業班が高性能林業機械を駆使して毎年約2千㎡の素材生産を行うなど本業の売上げはトップとなっており、登米市の林業を支えています。

遠藤さんの座右の銘は「森づくりは人づくり」。これからも経営者ならびに地域の指導者としてのご活躍を期待申し上げます。



ふるさとの自然案内

登米市の巨樹・古木巡礼 (第2回)

日本人は、古(いにしえ)から並はずれて遠大なものや年月を重ねたもの、稀少なものなどに対し、そこに何らかの存在を感じ、畏れや敬い、そして安らぎの心を寄せて生きてきたと言われています。地域の人々によって大切に祀られてきた巨樹や古木もその一つでしょう。ここでは、登米地方の巨樹・古木を訪ね、そのいわれや魅力をシリーズで紹介していきます。

◆宮城県指定天然記念物 日根牛の大クリ (登米町)

北上川左岸から約100メートル離れた個人宅敷地内にあるこの大クリは、慶安元年(1648年)頃に植えられたものと伝えられており、推定樹齢は355年の古木です。

昭和48年(1973年)5月15日に宮城県の天然記念物に指定されており、樹高8メートル、胸高直径1.8メートルの丹波栗ですが、普段見かける栗の木とは違い、幹は岩盤のようにゴツゴツと深いしわが入り、樹皮の深い亀裂が幹を巻き込むように大きく旋回している様子は見るものを圧巻します。

地上3メートル付近から十数本の枝を伸ばし今でも秋には結実しており、長年地域の方々に親しまれてきましたが、北上川堤防改修工事の影響で枯死する恐れがあるという事で、平成26年からこの大クリの後継木を育成し未来へ繋いでいく事となりました。



日根牛の大クリ



後継苗木の植栽状況

後継木は、樹木のクローン増殖を手がける国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター東北育種場の協力を頂き、苗木が育てられました。

平成26年2月に大クリから採取した穂木を同年3月に接ぎ木で増殖させ、その後2年間にわたり養苗され高さ約50センチメートルとなった苗木10本が、平成28年4月21日に登米市に里帰りしました。

引き渡された苗木は、大クリの所有者へ贈呈されたほか、市内の公園へ植栽されました。一部の苗木は登米総合運動公園敷地内の仮植畑で育成した後、日根牛地域の公園等に植栽し、親木と同様に市民に見守られながら大クリとなるよう育てられています。

コラム：目で見える登米の森林・林業

「本当にスゴイ!? 登米の森林・林業」

今回のテーマは津山町のスギ。右の表は他町との森林データの比較です。1年間の成長量は、40年生までは2倍弱、50年生までの総材積は1.3~1.5倍で「津山スギは初期成長が早い」と言われるとおりでした。木の収穫モデルに当てはめると、直径で2~3cmほどの差になります。

特産品となった矢羽木工品の芸術的な模様はこの年輪幅の広さが活かされたものです。

津山町には、小径木加工、製材、矢羽集成材の工場が集積しており、小径材から大径材までを利用するしくみが登米市の林業を支えています。

関係者が連携して製品需要の拡大に取り組めば劇的に儲かる林業となる可能性を秘めています。

スギの成長比較(町全部)

単位:立方メートル

スギの量 (1ヘクタール当たり)		登米市 津山町	〇〇町
1年間の 成長量	30年生	13	7
	40年生	11	6
	50年生	6	6
総材積	30年生	260	200
	40年生	370	260
	50年生	470	320



写真の原木は直径 50cm ほど。製品の繊細なイメージと違い意外に太い木を使う。



原木選びから製材、接着、加工まで多くの手をかける。製品の付加価値が非常に高い。



良い塩梅の広さの年輪幅が美しい矢羽模様をなす。その反面、材質が軟らかくて表面を磨く際に凹みやすく熟練技が要求される。



仙台市若林区にもショップがある。その効果もあって、関東方面からもインターネットで注文が来る。

編集後記

- 木材自給率が5年連続上昇し、平成27年度は33.3%になりました。その主な要因は木質バイオマス発電などの燃料用需要の増加によるもの。山に放置されていた未利用材の有効活用が進むのは良いことですが、木材として利用できるものまで燃やされないようにしたいものです。
- 特別編「ハイ！こちら製材所」では、各製材所の皆様に快く取材に応じていただきました。森林資源の利用には、林業と木材産業の連携が不可欠です。今後ともお互いに協力しながら、地域の発展につなげましょう！
- 東京オリンピックのポート・カヌー会場問題で「登米市」の名前が一躍全国区に。登米市では市有林のFSC森林認証FM認証を取得しましたが、登米市産材をPRする絶好のチャンスかも!?

矢羽木工品ができるまで



このパンフレットの印刷に伴い排出された温室効果ガスは、登米市及び米川生産森林組合等が森林整備により創出したJ-VERクレジットによりカーボン・オフセットされています。

バックナンバー

検索

登米地域事務所 登米の森林から

登米の森林から 第6号 2017年1月

宮城県東部地方振興事務所 登米地域事務所 林業振興部
〒987-0511 登米市迫町字西佐沼 150-5

